

「心の傷を癒す主」

～記憶の整理～

イザヤ 61 : 1～4

先週のメッセージで語られた「神の目線」。私たちが神の目線で見ようとする時、それを妨げようとするものは何でしょう。私たちの脳には様々な機能がありますが、脳の特徴として、忘れるというものがあります。脳に記憶するには何らかの刺激を与えてはなりません。そして脳の中にある海馬が私たちの記憶を司り、それが視床に伝えられ私たちの感情となって現れるのです。このように私たちの考えや感情は脳によって司られているのです。「神である主の霊が、わたしの上にある。主はわたしに油をそそぎ、貧しい者に良い知らせを伝え、心の傷ついた者をいやすために、わたしを遣わされた」（イザヤ61:1）。心の傷とは、どういふものなのでしょう。私たちの心はどこにあるのでしょうか。お腹、胸のあたり・・・確かにそうかもしれません。しかしヘブル後で心の傷のことをレブ・シェバ（心が散らされる）といい心の傷とは出てきません。これらの事をふまえると心の傷は脳の働きと密接な関係があることがわかります。精神的な疾患は記憶がなくなると治ります。この事は医学的にも立証されています。本来記憶は過去の失敗を二度としないためにあるものですが、これらのものは5分くらいで忘れてしまいます。しかし、ある出来事が自分の人生に関わるようなもので、大きな刺激が加わると人はそのことを記憶してしまい、心の傷になります。だからこそ心の傷を治すには記憶を消してしまうのがよいのです。神様が私たちの傷を癒す時とった方法もこのようなものでした。私たちの傷についている記憶を呼び起こし、その時「イエス様が共にいた」ということを知ることで、癒されるのです。悪魔は人の記憶に働きかけます。過去を思い出させます。なぜなら悪魔は、未来がわからないからです。未来は神しか知らないのです。悪魔は現在の因果関係を見て、将来を予想することしかできないのです。悪魔は神がこれから語ろうとすることを予想して語り、神から私たちに伝えられたときには、うるさくさせ、神に従えなくさせてしまうのです。その時の不安を今の不安と置き換えたりしてきます。悪魔は私たちを虜にしたいと考えています。あなたは今虜になっていませんか。虜とはあなたがそれに心がいっぱいになることです。そして神の前で一時よくなっても、また思い返し、心がそれでいっぱいになってしまうのです。あなたの記憶が整理されているか考えてみてください。（エペソ4：23～）「心の霊において新しくされる」とは怒りや偽りの部分です。私たちは心で思っていることと口に出していることが違うということをとかくやりがちです。それを人にされると私たちは傷つきます。しかしあなたはそれをしていませんか？悪魔に機会を与えてはならないというのは、怒りだけでなく偽ることもそうなのです。偽りや憎んだ心が日を越すと、苦々しい思いを次の日に引きずってしまいます。こうなるとよかったところまで、悪くなっていきます。悪魔がやりたいことはそういうことなのです。「だから、あすのための心配は無用です。あすのことはあすが心配します。労苦はその日その日に、十分あります。」（マタイ6:34）だから今日の心配を次の日に持ち越すことも明日の心配をすることも悪魔に機会を与えることになってしまうのです。だからこそ毎日必ずきれいにしなくてははいけません。神は私たちを愛するが故にその領域にも癒しをもたらしたいのです。ですから、この過去の記憶の部分に神の癒し、それは新しい記憶を上書きする必要があります。エペソ4：23～新しい人を着るとい言葉が使われています。悪魔は過去の悪い記憶を1つ思い出させ、今の決断力を鈍らせればよいのです。それが悪い連鎖を生み、良い循環の日常生活から遠ざける事がしたいのです。ですから、悪魔に機会を与えないために、あなたの記憶を悪魔にあげてはいけません。神に祈って解決するときだけ話さなくてははいけないのです。あなたに確信を与えるのは本来神だけです。イエス様はペテロに、3度「愛しますか？」とたずねました。それはなぜでしょう。それはペテロが3度裏切ったからです。ペテロがイエス様を3度否んだそのときに、イエス様がいたということ伝えて癒したのです。つまり記憶を整理したのです。心に傷があったのではなく、記憶に傷があったので、記憶を開いたのです。洗礼はそれまでの古いものが消え、全てが新しくなるのです。だから過去のことは忘れなくてははいけないのです。あなたの記憶を忘れ、あなたの心の中から外へ出なくてははいけないのです。過去のことを思い出すのをやめましょう、もし人のことを過去で責めるなら、あなたも過去で責められるのです。もし癒された感がないのなら、それはまだ記憶が残っているのです。傷のないものとなるために①**記憶はあなたと神様のもの**。悪魔のものではありません。悪魔はあなたと共に歩んでいたわけではありません。悪魔はあなたの後ろからやってきて、落とし穴に落とそうとしているだけなのです。辛い、苦い過去こそ、神が私を背負ってくれたのです。これを新しい記憶として受け取るのです。母の胎にいる時から私たちは神に知られています。神を求めず、神から離れた生活をしている時でも神は私たちを愛して側にいてくれたのです。その事を知りましょう。悪魔はあなたに告げ口をしているだけです。神はあなたの過去の記憶に触れて同じあやまちをさせたくないだけです。過去の記憶で悩むとしたらそれは悪魔の仕業です。もし今失敗を繰り返しているのなら、悪魔にうまく利用されている可能性があります。たとえマイナスの記憶でも無から有を生み出す神様は、必ずそれをプラスに変える方です。記憶を悪魔に渡さないでください。②**壊されたものを治す**。傷ついた記憶を思い出して、イエス様がいたと思ってください。人に言われたその言葉や辛かったその現実イエス様の十字架をあてはめてください。あなたの記憶をなおしてください。そしてあなたのその記憶をよいものに変えてください。あなた自身の記憶を神様にあずけ、あなたの過去の記憶をなおしましょう。繕うと二心になってしまいます。③**信仰と確信**。人は忘れなくてははいけないことを覚えていて、忘れてはいけないことを忘れてしまいます。しかし、神はがんばったことは覚えていて、その人が悔い改めて、一度消されたことは必ず赦して下さっています。あなたは赦されたと確信してください。あなたの過去は忘れられたと信じてください。記憶を整理していきましょう。小さなゴミは毎日出してください。自分で捨てられないゴミは、教会で捨てましょう。バロメーターは、二心です。自分の言っていることと心が違ってないか、自分で見張ってください。今日からあなたは新しくなったと信じましょう。